

# 令和元年12月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社sMedio

(東証マザーズ：証券コード3913)

<https://www.smedio.co.jp/>

令和元年8月7日(水)

本資料の無断複写、無断転用はしないで下さい

本資料の要因分析は、当社が適切と考える方法で実施している点、ご理解下さい。



Copyright© sMedio, Inc. All rights reserved.



1. 連結業績概要	…P3
2. 連結決算概要 (BS)	…P4
3. 形態別連結売上高推移	…P5
4. 連結売上高増減要因(計画比)	…P6
5. 連結営業利益・連結経常利益推移	…P7
6. 研究開発費推移	…P8
7. 本資料の取扱いについて	…P9

本資料中の数値は、単位未満四捨五入で表記しております。  
なお、端数処理の影響で、各表の項目の合計と合計欄が一致していない場合があります。

# 1. 令和元年12月期 第2四半期 連結業績概要

単位: 百万円未満切捨て

	平成29年 1-6月期	平成30年 1-6月期	令和元年 1-6月期	前年同期比	
売上高	585	534	437	△96	△18.1%
売上原価	271	260	262	1	0.8%
売上原価率	46.3%	48.7%	60.0%	11.3%p	
売上総利益	314	273	175	△98	△36.0%
販管費	271	244	244	0	0.0%
営業利益	42	29	△69	△98	△338.8%
営業利益率	7.2%	5.4%	△15.8%	△21.3%p	
営業外収益	1	1	1	△0	△15.5%
営業外費用	1	1	0	△1	△81.3%
経常利益	42	29	△68	△97	△334.8%
特別利益	—	—	—	—	
特別損失	4	0	—	△0	△1.9%
税金等調整前四半期純利益	37	29	△68	△97	△335.4%
法人税等	28	16	1	△15	△89.3%
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—	—	—	
親会社株主に帰属する四半期純利益	9	12	△70	△82	△674.8%

(売上高) 出荷台数が前年同期を下回った影響が大きく、96百万円の減収となった。

(売上原価) 今後のロイヤリティ収入が見込める開発案件の納入に難航し（上期に納入済）、人件費・外注費等が多くかかり、前年同期と変わらない水準となった。

(営業利益・経常利益) 減収の影響が大きく出て、赤字となった。

## 2. 令和元年12月期 第2四半期 連結決算概要 (BS)

単位: 百万円未満切捨て

資産	平成29年 12月末	平成30年 12月末	令和元年 6月末	前期末比
現金及び預金	1,218	1,083	709	△374
売掛金	57	47	15	△32
棚卸資産	245	119	437	318
その他	13	16	14	△1
流動資産合計	1,535	1,266	1,177	△89
有形固定資産	23	21	26	4
ソフトウェア	39	24	21	△3
のれん	117	85	69	△16
その他	1	1	1	—
無形固定資産合計	158	111	91	△19
投資その他資産	48	50	49	△1
固定資産合計	231	183	168	△15
資産合計	1,766	1,450	1,345	△105

負債・純資産	平成29年 12月末	平成30年 12月末	令和元年 6月末	前期末比
買掛金	28	49	41	△7
短期借入金	125	124	61	△62
未払法人税等	27	6	6	—
未払費用	28	39	70	31
賞与引当金	2	2	5	2
その他	120	44	43	△1
流動負債合計	333	265	228	△36
長期借入金	124	—	—	—
その他	13	8	6	△2
固定負債合計	138	8	6	△2
資本金・資本剰余金	1,174	1,176	1,174	△1
利益剰余金	329	219	148	△70
自己株式	△227	△227	△219	7
その他	17	7	5	△2
純資産合計	1,294	1,175	1,109	△66
負債・純資産合計	1,766	1,450	1,345	△105

### (資産)

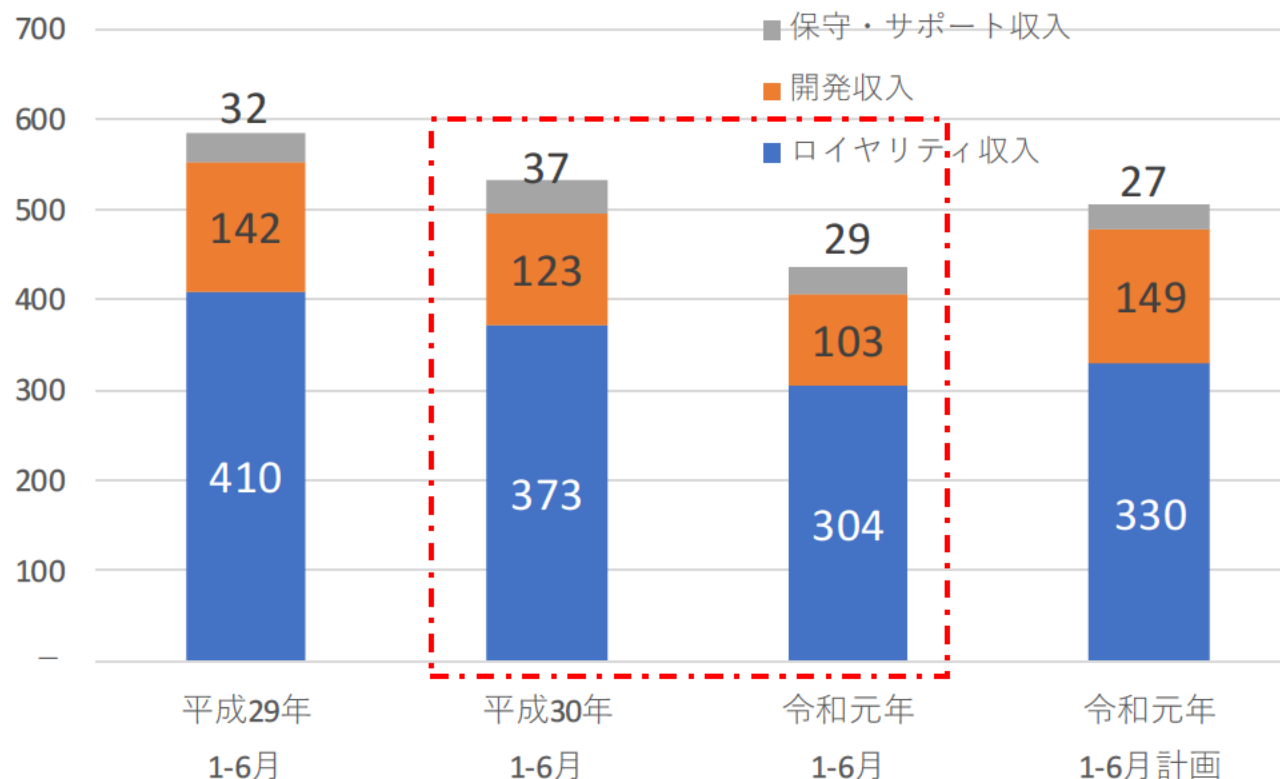
- ・ 支払ロイヤリティを前払いしたことで棚卸資産が318百万円増加した。
- ・ 四半期純損失の計上(70百万円)および借入金の約定返済(62百万円)に加え、上記の前払いの一時的な影響が大きく、現預金は374百万円減少した。

### (負債)

- ・ 約定返済により、短期借入金が62百万円減少した。
- ・ 株式報酬のために自己株式を活用したことで、自己株式が7百万円減少した。

※繰延税金資産・負債は、全て固定資産および固定負債の区分に表示しています。

### 3. 形態別連結売上高推移



単位：百万円未満切捨て

連結売上高合計	585	534	437	507
---------	-----	-----	-----	-----

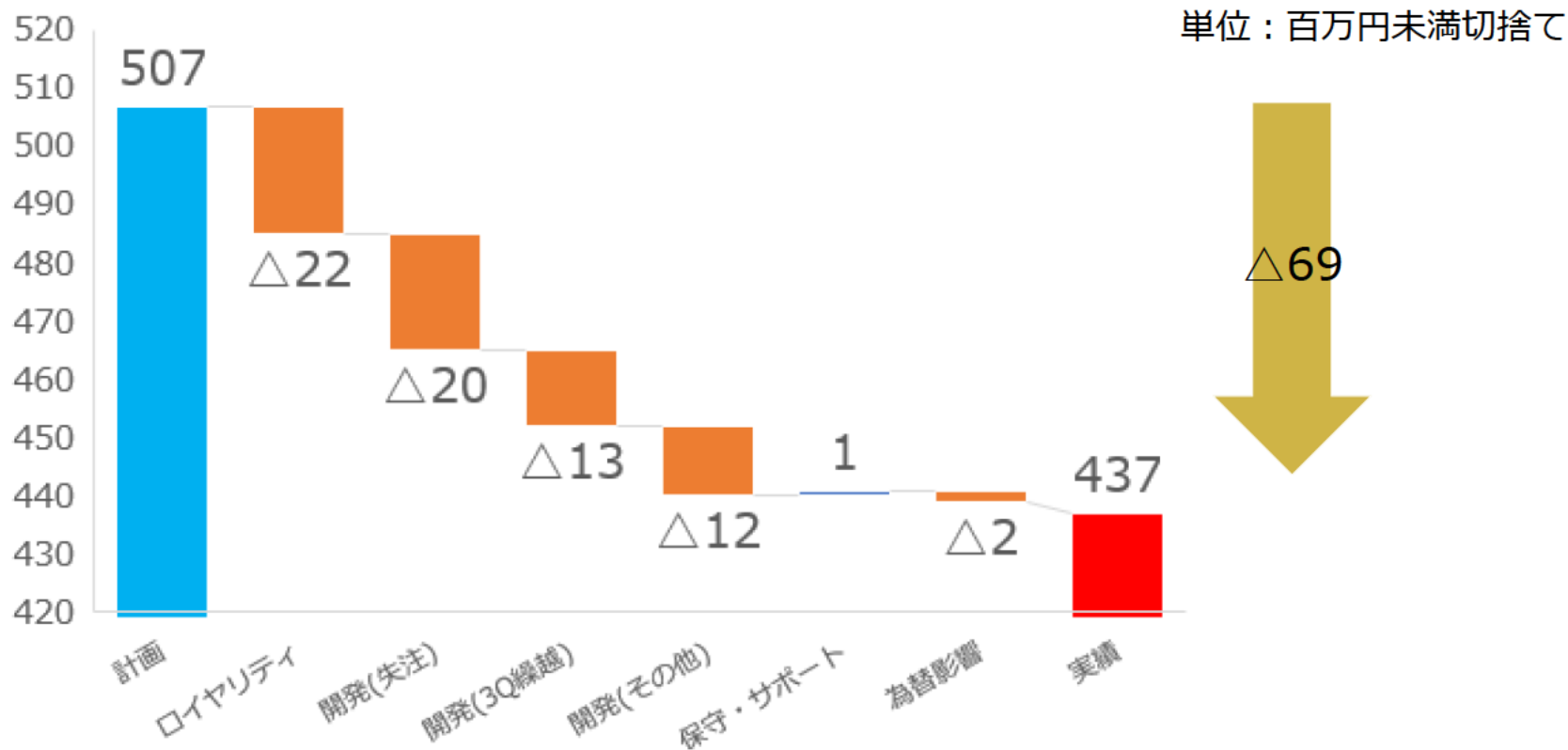
#### (ロイヤリティ収入)

当社ソフトウェア搭載機器の出荷台数が前年同期を下回ったことで68百万円減少。

#### (開発収入)

子会社・タオソフトウェアでの反動減等により20百万円減少。

## 4. 連結売上高増減要因（計画比）



### （ロイヤリティ収入）

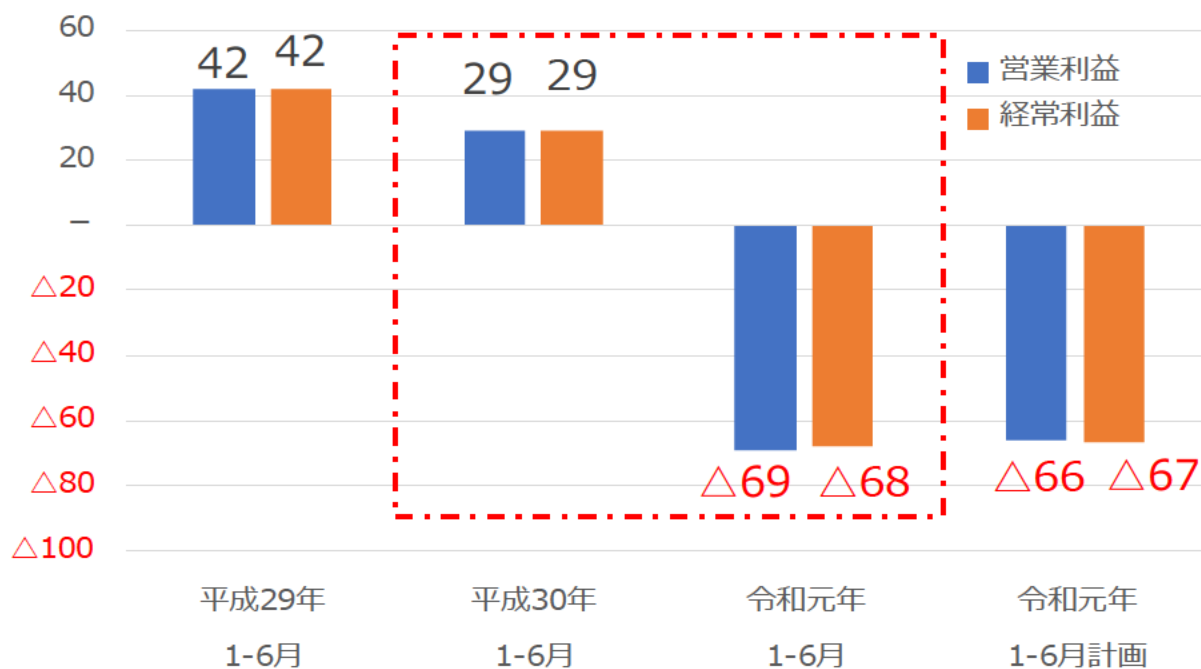
- ・出荷台数が想定に届かなかった影響で、計画比22百万円減少。

### （開発収入）

- ・期待していた開発案件を受注できなかった影響（計画比20百万円減少）に加え、納品が第3四半期にずれ込んだ案件による影響(同13百万円減少)があり、計画比45百万円減少。

## 5. 連結営業利益・連結経常利益推移

単位：百万円未満切捨て



連結営業利益	42	29	△69	△66
連結経常利益	42	29	△68	△67

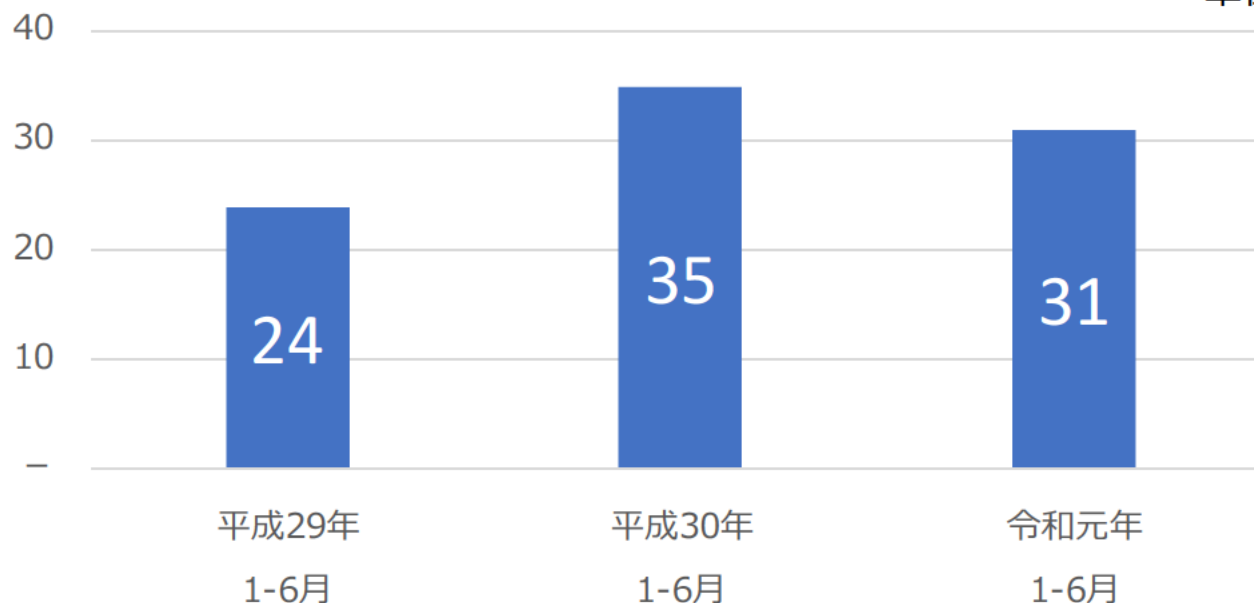
### (営業利益・経常利益)

売上高の減少に加え、開発に難航した開発案件があったことで、売上原価は前年同期と同じ水準のままであったため、営業赤字・経常赤字となった。

営業赤字・経常赤字の金額は、ほぼ計画通りの水準であった。

## 6. 研究開発費推移

単位：百万円未満切捨て



当第2四半期の研究開発費の内容は、前年同期と同様、主にAI関連とブラウザ関連になります。

(注) 当社の研究開発費は、受注決定前までの先行開発期間にかかる内部開発人件費を主としています。そのため、研究開発費の水準の評価にあたっては、受注済案件への開発リソース配分を増やすと、研究開発費は減少する傾向にある点にご留意ください。



本資料は、株式会社sMedio（以下、「当社」といいます。）の決算情報の説明のために作成されたものであります。

本資料に記載されている計画や見通し、将来展望などは、本資料作成時点において入手可能な情報に基づき、当社が合理的と考えるものであります。が、これらには、様々なリスクや不確実性が内在しています。

様々なリスクや不確実性には、既知のものもあれば、未知のものもあり、当社が発表している計画や見通し、将来展望、将来の業績などが、実際の業績などと異なる結果となる可能性があり、当社として、それらの実現を保証するものではありません。